

# 日本の電子出版市場及び制作流通の動向について

2013年6月13日



一般社団法人 Association for E-publishing Business Solution  
電子出版制作・流通協議会

## 電子出版制作・流通協議会について

### 設立目的

電子出版ビジネスの発展に必要な課題の整理と検証、配信インフラ基盤に関わる問題抽出とその解決、市場形成における検証や電子出版振興に関わる提言等、出版関連団体や権利者および行政機関との連携をはかることにより、電子出版の発展に貢献する活動を目指す

- ① 名称 一般社団法人 電子出版制作・流通協議会 <http://www.aebs.jp/>
- ② 発起人 凸版印刷株式会社、大日本印刷株式会社、株式会社電通
- ③ 活動内容
  - 1) 電子出版制作・流通ビジネスに関連する情報共有
  - 2) 制作・規格・仕様・流通に関する協議
  - 3) 電子出版ビジネスの発展と普及にかかわる活動
  - 4) 電子出版制作・流通ビジネスにおける日本モデルの検討及び協議
  - 5) 商業・公共・教育・図書館等電子出版関連分野に関する情報共有
- ④ 会員 113社(幹事会員3社、一般会員44社、賛助会員58社、特別会員8)(2013年6月現在)
- ⑤ 2010年7月発足、2010年9月3日(一般社団法人登録)



### 関連団体

<p>一般社団法人 日本電子書籍出版社協会</p>  <p>日本電子書籍出版社協会 THE ELECTRONIC BOOK PUBLISHERS ASSOCIATION OF JAPAN</p>	<p>一般社団法人日本出版インフラセンター(JPO)</p>  <p>出版、電子出版物の流通に必要な、コード番号等の発行・管理機関、「コンテンツ緊急電子化事業」</p>
<p>International Digital Publishing Forum</p>  <p>電子書籍の代表的なフォーマットEPUBの策定等</p>	<p>社団法人 日本書籍出版協会(書協)</p>  <p>社団法人 日本書籍出版協会</p>
<p>一般社団法人 著作権情報集中管理機構</p>  <p>コンテンツの著作権情報管理機関</p>	<p>社団法人 日本雑誌協会(雑協)</p>  <p>社団法人 日本雑誌協会</p>
	<p>日本電子出版協会(JEPA)</p>

### 関連行政機関

- ・経済産業省
- ・総務省
- ・文部科学省
- ・文化庁
- ・国立国会図書館

# 1. 日本の電子出版市場規模

## 電子書籍市場と出版市場

年度	電子書籍市場規模(億円)			電子雑誌市場規模(億円)	電子出版市場規模(億円)
	PC向け	ケータイ向け	新たなプラットフォーム向け		
2002年度	10	-	-	10	-
2003年度	18	1	-	18	-
2004年度	33	12	-	45	-
2005年度	48	46	-	94	-
2006年度	70	112	-	182	-
2007年度	72	283	-	355	-
2008年度	62	402	-	464	-
2009年度	55	513	6	574	-
2010年度	53	572	24	650	6
2011年度	37	480	112	629	22
2012年度予測	12	407	294	713	55
2013年度予測	10	330	600	940	110
2014年度予測	10	270	970	1,250	170
2015年度予測	10	220	1,370	1,600	250
2016年度予測	-	200	1,800	2,000	350

出展：株式会社インプレスR&D  
2012年7月3日

2011年度の電子出版市場推計は629億円前年比-3.2%。

・携帯電話からスマホに乗り換えるユーザーが多かったことや、利用者が増加しているスマホやタブレットで販売する電子書籍の規模が携帯の減少分を補えず、微減。

携帯電子書籍市場 480億円(前年比-16%)

新端末電子書籍市場 112億円(+363%)

また、電子雑誌市場は22億円(+267%)に成長しています

※2012年度の電子出版推計は6月末ごろに発表される予定です。

スマートフォンやタブレット端末の普及が電子出版市場の形成を後押ししている

## 1 スマートフォン

2,972万台  
+23.0%  
(2012年度)



3,240万台  
(2013年予想)



\* 出典：MM総研

## 2 タブレット端末

568万台  
+104.3%  
(2012年度)



690万台  
+21.5%  
(2013年予想)



\* 出典：MM総研

## 3 携帯電話

2012年度  
1,209万台



\* 出典：MM総研

## 4 パソコン

2012年  
1,558万台  
+2.7%



\* 出典：IDC Japan

## 2. 電子書籍プラットフォーム(端末)動向

## 電子書籍のプラットフォームとは？

### (1) 携帯電話(フィーチャーフォン)

主に携帯電話会社が提供

### (2) 電子書籍専用端末

電子書籍ストアが提供

### (3) 電子書籍アプリケーション(タブレット、スマートフォン、PC対応)

電子書籍ストアが提供(多端末へ提供)

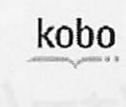
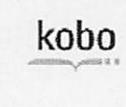
### (4) Webブラウザからのアクセス

電子書籍プラットフォームの機能

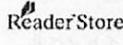
- ・検索、選択
- ・閲覧(閲覧制限)
- ・購買(課金)
- ・販売促進(プロモーション)



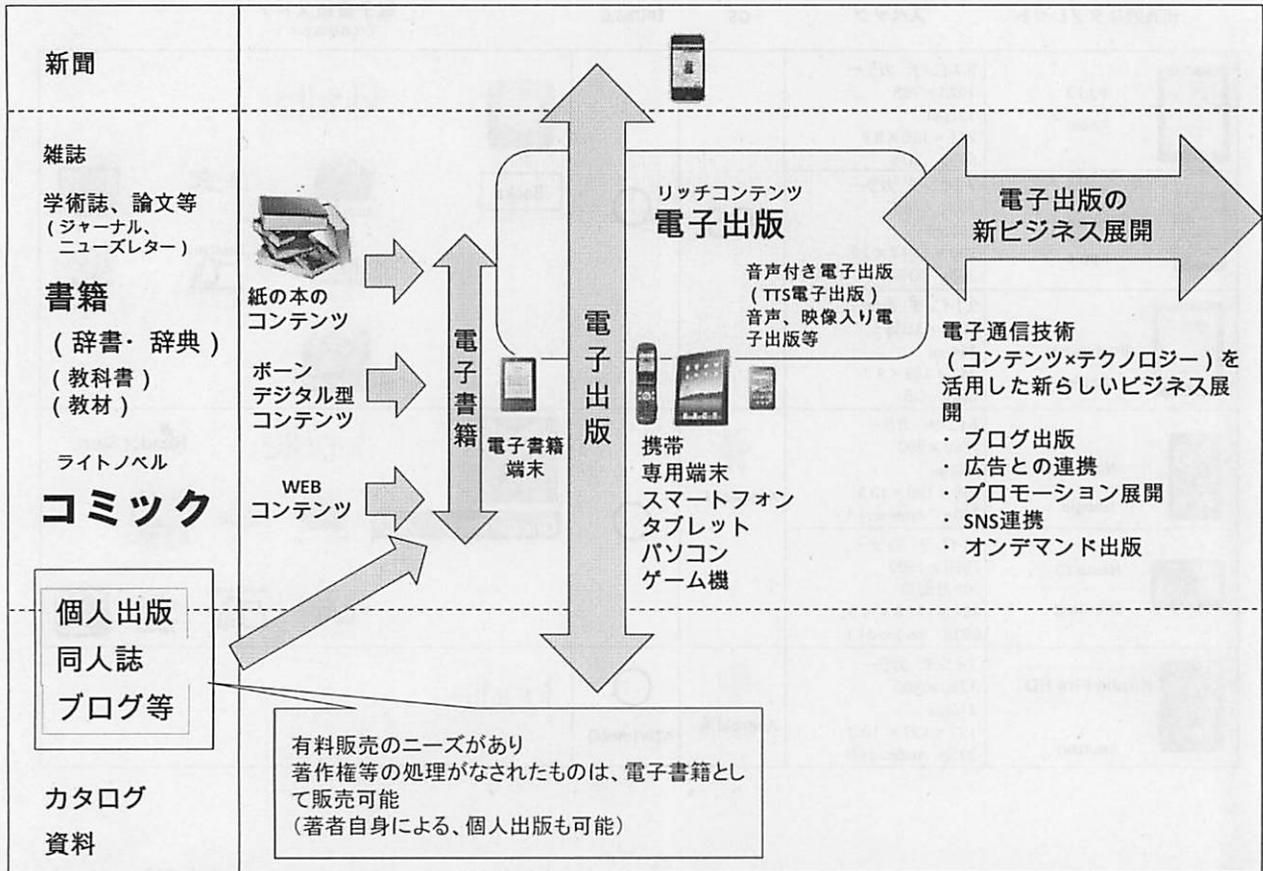
## 電子書籍端末 1. 「電子書籍専用端末」

代表的な専用端末	スペック	電子書籍ストア	EPUB3.0	その他 対応フォーマット	
 <p>Sony Reader Wi-Fiモデル/6型 PRS-T2</p>	6型のE Ink電子ペーパー(モノクロ)を搭載。		○	XPDF(mnh/zbfb), EPUB、PDF、TXT、JPEG、GIF、PNG、BMP	
 <p>Kobo Touch kobo</p>	6型のE Ink電子ペーパー 114 × 165 × 10 185g		○	PDF	
 <p>Kindle Paperwhite amazon</p>	6インチ モノクロ16階調 212dpi 169 × 117 × 9.1 213g		○ AZW(mobi)	PDF HTML JPEG、GIF、PNG、BMPは変換して対応。	フロントライト搭載 1回の充電で約8週間(ワイヤレスオフ)利用可能 国語辞書、英和辞典プリインストール
 <p>Lideo Book Live!</p>	6インチ モノクロ16階調 165 × 110 × 9.4 170g		○		WiMax 搭載 2012年12月10日発売
 <p>Kobo glo kobo</p>	6インチ モノクロ16階調 114 × 157 × 10 185g		○	PDF	フロントライト内蔵 マイクロSD インターフェイス モリサワフロント搭載

## 電子書籍端末2.「タブレット(汎用端末)」

代表的なタブレット	スペック	OS	E PUB3.0	電子書籍ストア (代表的なもの)
 iPad 2 Apple	9.7インチ カラー 1024×768 132ppi 241×186×8.8 613g iOS	iOS	○	 iBooks  kindle  BookLive  honto  BOOKS 紀伊國屋  BOOKS 伊藤屋  BookGate  eBook Japan  GALAPAGOS
 iPad mini Apple	7.9インチ カラー 1024×768、 163ppi 200×134.7×7.2 308g iOS			
 iPad 第4世代 Apple	9.7インチ カラー 2048×1536 264ppi 241×186×9.7 652g iOS			
 Nexus7 Google	7インチ カラー 1280×800 216ppi 199×120×10.5 340g Android4.1	Android4.1	○	 kindle  ReaderStore  Google Play ブックス  BookLive  honto  BOOKS 紀伊國屋  BookGate  eBook Japan  GALAPAGOS
 Nexus10 Samsung	10インチ カラー 2560×1600 300万画素 264×177.6×8.9 603g Android4.1			
 Kindle Fire HD Amazon	7インチ カラー 1280×800 216ppi 193×137×10.3 395g Android4.0	Android系	○	 kindle

## 3. 電子書籍・電子出版の示す範囲



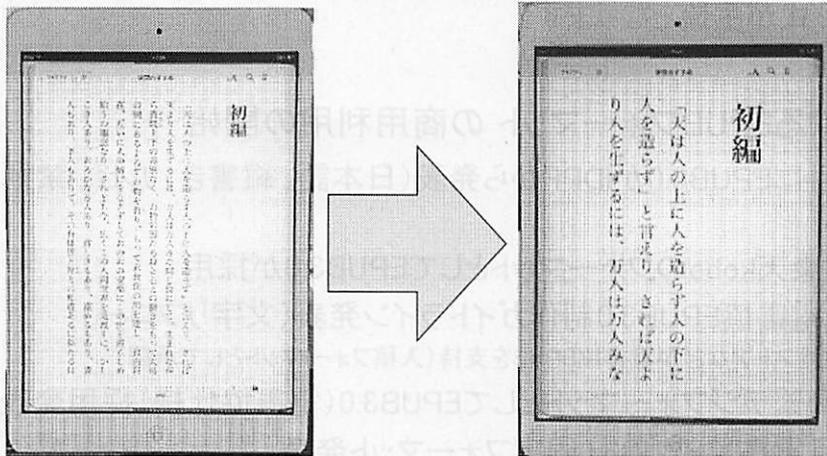
## 4. 電子書籍のフォーマット、制作工程

## 電子書籍コンテンツの種類 リフロー型

リフロー型（再流動型）は、おおもとの文字データをその都度画面（電子書籍閲覧ビューア）や設定に応じて表示する仕組みで、表示された内容が結果的に「ページ」となります。

それゆえに「使う機器」や「文字サイズの設定」などによって表示される内容（表示されるページ）が変化します。

主なフォーマットにはEPUB、XMDF、.book（ドットブック）があります。



リフロー表示の例

## 電子書籍コンテンツの種類 フィックス型

「紙の本」と同じように文字などのレイアウト（配置やデザイン）が固定されていて、ページ単位でコンテンツができていくものが「フィックス型」といいます。

代表的なフォーマットとしては、PDFがあり、リフロー型のEPUB、XMDF、.Bookもフィックス型のコンテンツに対応しています。

漫画の電子書籍は基本的にフィックス型が使われます。



フィックス型の表示例

## 1. 電子書籍のフォーマットについて

- ・携帯電話向けのフォーマットとしては主に、XMDFとドットブックのフォーマットが主流(日本語特有の右開き、縦書、ルビ、禁則処理などに対応)
- ・パソコン側では、PDFを始め、XML系の多数のフォーマットが存在しています。
- ・米国などでは、事実上EPUBがスタンダードで、電子出版市場を占有していますが、電子書籍市場でみるとAmazonのAZW(mobi+独自DRM)フォーマット、及びKindle Format 8形式が主流となります。

## 2. 日本におけるEPUBフォーマットの商用利用の開始

- ・2011年10月にEPUB3.0がIDPFから発表(日本語、縦書き、ルビ、禁則、右開き採用)
- ・2012年7月楽天koboのフォーマットとしてEPUB3.0が採用
- ・2012年9月電書協EPUB3.0制作ガイドライン発表(文字リフロー)  
→大手電子書籍ストアなどが電書協EPUBを支持(入稿フォーマットとして承認)
- ・2012年10月緊デジフォーマットとしてEPUB3.0(電書協仕様)採用発表
- ・2012年10月電書協EPUB3.0固定フォーマット発表

※緊デジ「経済産業省「コンテンツ緊急電子化事業」

## 電子出版のフォーマットについて

	代表的フォーマット	特徴
リフロー	<b>EPUB</b> (ipdf) <b>AZW</b> (Amazon) <b>XMDF</b> (シャープ) <b>.book</b> (ボイジャー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 版面(画面)のサイズ変更柔軟に対応できる</li> <li>・ 版面に応じた文字フォントやサイズ選択が可能</li> <li>・ 雑誌や新聞などの複雑なレイアウト対応(サイズや文字の縦組・横組が混在しているもの)が難しい</li> </ul> [適正のあるもの]一般書物(テキストベースの書物)、単純レイアウトのジャーナル(学術情報誌)など
固定レイアウト	<b>PDF</b> (Adobe) <b>EPUB</b> (ipdf) <b>XMDF</b> (シャープ) <b>.book</b> (ボイジャー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PDFは、Adobe社が開発・公開したフォーマットでDTPやワープロの出力形態として進化してきた出力形態</li> <li>・ EPUBでは、版面を画像として表示することで、固定レイアウトを可能としている。</li> <li>・ 雑誌や新聞、チラシにみられるような複雑なレイアウト出力が可能</li> <li>・ 制作上の手間が少ない</li> </ul> [適正のあるもの] 雑誌、新聞、チラシ、カタログ、マンガ、写真集等々
アプリ系	<b>iOS</b> (Phone,iPad) <b>Android</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラム、映像、音楽等のコンテンツの組み込み、リンクが可能</li> <li>・ サーバ側との連携動作が可能</li> <li>・ コストや制作時間がかかる</li> <li>・ 端末・画面サイズやOS(バージョン)に応じた制作や検証が必要</li> <li>・ プラットフォーム側の許諾が必要な場合がある</li> </ul> ※アプリ系コンテンツは、実質的に、Webコンテンツと電子書籍との差がなくなる
携帯コミック	ブックサーフィン コミックサーフィン .book ブンビューワー XMDF compactXMDF	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第三世代携帯電話でコミックを読むために開発されたフォーマット</li> <li>・ のコミックサーフィン(現在では、ボイジャー社のドットブック形式ファイルが利用できるブックサーフィン)などがある</li> <li>・ 携帯通信キャリア・端末ごとに仕様が異なるが、基本的には、KDDI(au)、ソフトバンクモバイルがダウンロード方式で、NTTドコモはストリーミング方式</li> <li>・ 現在では、ラスター方式が主流</li> <li>・ 携帯コミックのページ(コマ)送りを携帯電話の上下ボタンで行う方式を定めたのは、ビットウェイで、現在は、この方式がデファクトスタンダード化している</li> </ul>

## EPUBとは

IDPFが提唱する、電子書籍の標準フォーマット  
日本で電子書籍ストア展開をしている大手はEPUBフォーマットでの入稿を認めている（各ストア毎、若干の特徴が異なる）



ePUB

## EPUBの特徴

事実上の国際標準で、海外では教科書等のフォーマットとして採用されている



Web技術との親和性が高い

ソフトウェアの基本部分はだれでも利用可能  
(フリー&オープン)

## EPUB3.0の日本語表現

EPUB3.0で実現した機能  
縦書き、右開き、ルビ、  
縦中横  
禁則処理(下揃え、圏点、等)  
TTS機能  
リフロー、固定レイアウト



縦書きのルビ例

現文字 → 君子は和して同ぜず  
ルビ → くんしわくしてどうぜす

この表は、法令・公用文書・新聞・雑誌および一般社会で、使用する漢字の範囲を示したものである。『常用漢字表』(まじかき) 法令、公用文書、新聞、雑誌、放送など、一般の社会生活において、現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安を示すものである。『常用漢字表』(前書き)

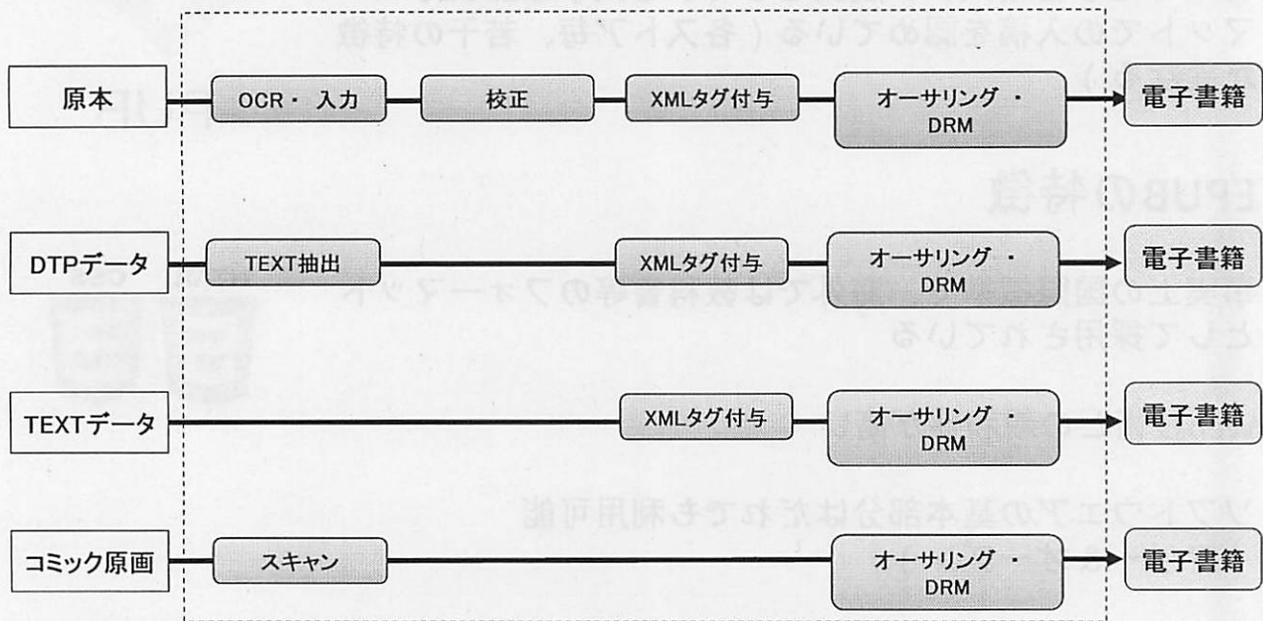
平成18年12月25日

縦中横

# 既刊本、新刊本の双方のデジタルコンテンツ制作

## 既刊本

既刊本からの製作は、保有されているコンテンツの状態にあわせた対応が必要

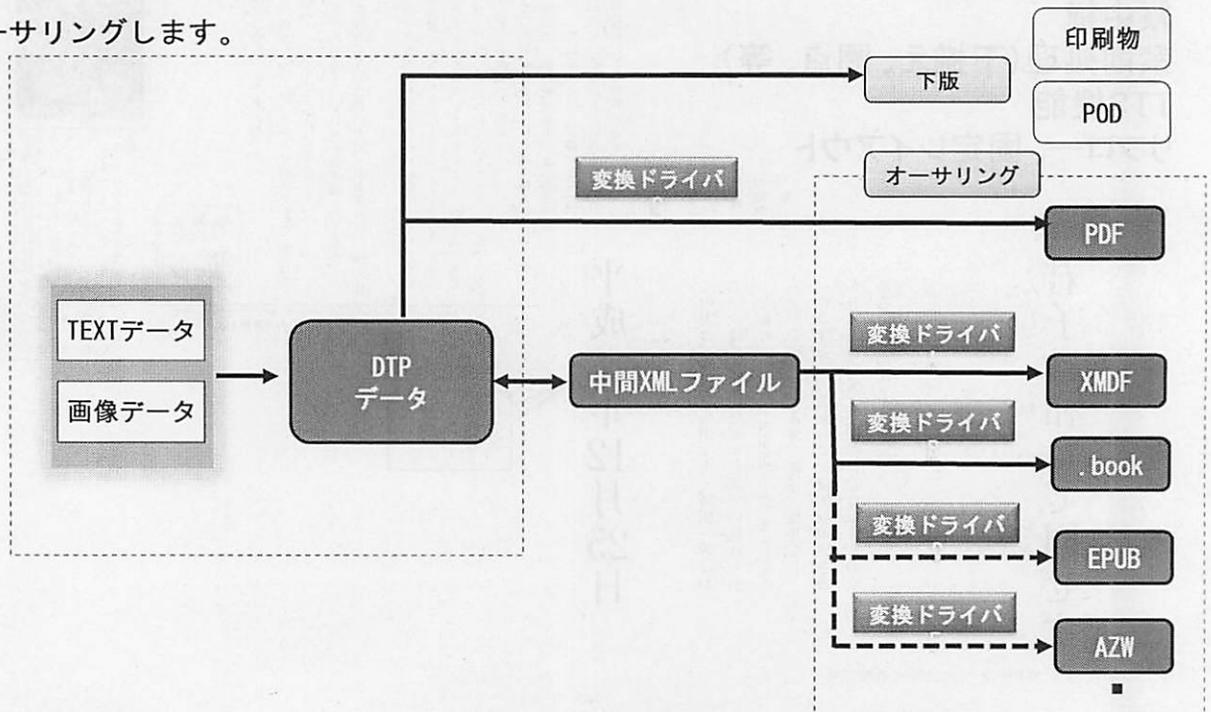


XML : 文書やデータの意味や構造を記述するためのマークアップ言語

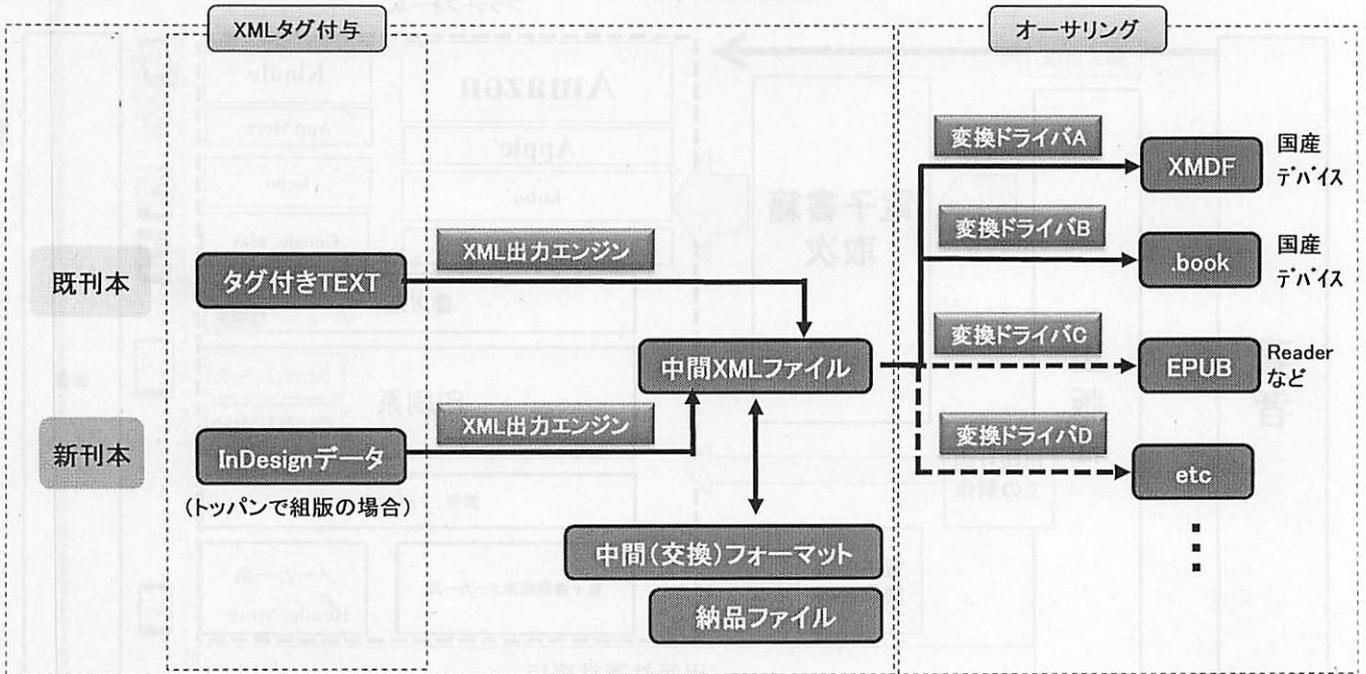
# 既刊本、新刊本の双方のデジタルコンテンツ制作が必要

## 新刊本

新刊本の製作はDTPソフトを用いて紙の本の制作を行い、この後XML等の構造化された言語にし、オーサリングします。

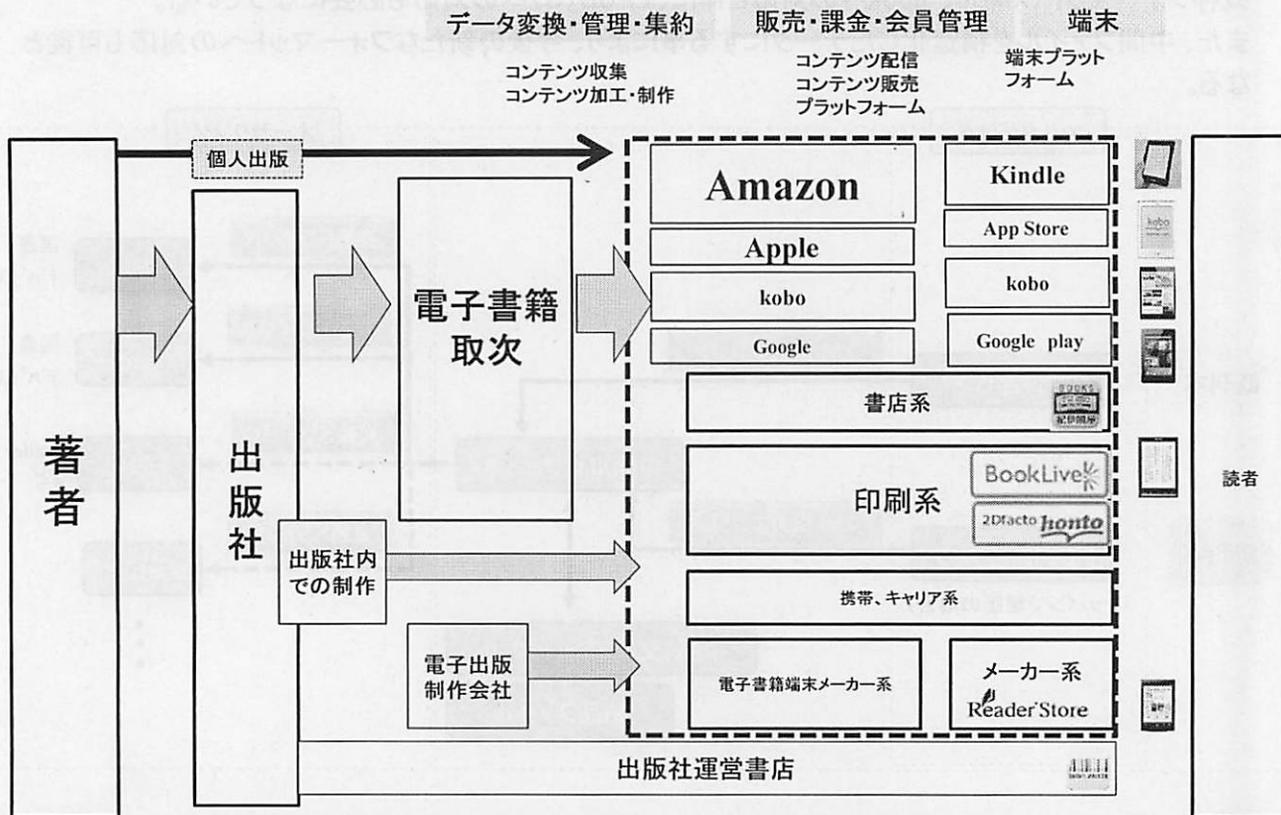


既存フォーマット(XMDF、.bookへの対応と伴に、EPUB(3)への対応も必要になっている。  
 また、中間ファイルを構造化したデータにする事により、今後の新たなフォーマットへの対応も可能となる。



## 5. 電子書籍の流過程 各事業者の役割

# 日本の電子出版市場の概要



# 日本の電子出版物の流れ

